

第3回 鳴門市まちづくりデザイン会議 議事録

日 時 : 令和7年8月9日 13時30分から15時25分

場 所 : 鳴門市役所 2階 大会議室

参加委員 : 内藤廣座長、永易委員、林委員、森下委員、河野委員、西谷委員、黒崎委員、池田委員

事務局 : まちづくり課 小川課長、碓主幹、林副課長、齋藤係長、大端係長、八幡主事、戦略企画課 吉川課長、公園緑地課 清水課長

発言者	主な発言内容
事務局	只今より、第3回 鳴門市まちづくりデザイン会議 を開会いたします。 開会にあたり、座長より、ご挨拶をお願いします。
内藤座長	最近考えていることをお話しさせていただきたいと思います。大学の学長をやっております、若い学生と話す機会が多くて、今の子達は、元気がないとか、みんな言ってるけど、実はそんなことないっていうことが、だんだんわかってきて、若い子ってなかなかいいなと最近思ってるところであります。ますます思うようになったのは、僕は大学生では手遅れで、高校生だとか、中学生だとか、そういう世代をどうやって育てていかなきゃいけないのかなっていうのが、むしろ本当でして、そうすると、我々の仕事はこの場所のまちづくりということですけど、本当に次の世代とか、次の次の世代に渡せるまちがつくれるか。多分それが本題なんだろうと思うんですよね。今回は、いろいろアンケートとか、さらに積み重ねて、若い人の意見を少しちゃんと聞こうということでやってますので、その辺、後で説明してもらおうと思いますが、我々の世代はもうすぐいなくなるんだけど、次の世代と次の次の世代ぐらいまでは、何か、今頑張ったよっていう、残せるようなまちづくりでしたいと思ってますので、よろしくお願ひしたいというふうに思います。
事務局	安宅委員が7月末をもって鳴門商工会議所を退職したことにより、後任の選任を会議所に依頼しておりますが、今回は8人の委員の皆様で、協議いただきたいと考えております。よろしくお願ひします。 会議設置要綱 第6条第2項の規定により、会議については、座長が進行する運営するとされております。これより、内藤座長に会議の進行をお願いします。
内藤座長	それでは私の方で進行をさせていただきます。委員の皆様、忌憚のない意見をよろしくお願ひします。鳴門の委員会は、皆、言いたいことを言える雰囲気になってきてますので、ざっくばらんに意見をいただきたいと思います。それでも委員会が進むに従って決めなければいけない、まとめなくてはいけないことも出てきますので、その時は協力してまとまりをお願いします。それでは議事に前回の振り返りと現状報告について事務局より報告してください。
事務局	(事務局より、前回の振り返りと現状報告、リノベーション事業の説明を行う。)
内藤座長	ありがとうございました。ここで意見、質問があればお伺ひします。これに

	参加した、今のリノベーションの講演会とか聞かれた先生方おられますか。その人たちから印象を聞きましょうか。
西谷委員	すごい皆さん関心を持たれているのを感じました若い人も多くて、学生の方がいろいろ質問されてるのがすごい印象を受けました。実際、西村先生の意見っていうのも駅のウオーターフロントっていうか、こちらの方、何かできないかっていう。これもなんかこう、うちの会社がそこにあるもんなんで、そういうところで、こういう目線でとらえておられるんだなっていうのがすごい。
内藤座長	そういう目線ってどういう目線。
西谷委員	僕らとしてはもう人が集まらないエリアだっていうふうなイメージがあったんですけど、駐車場の活用っていうのがうまくされてて、うちの裏の駐車場が、先生が名簿をつけたところで、そこに車を置いて、いろんな車とか、これから申し上げることになるんだけど、プランを、我々も日常そこを駐車場としか見ていないんで、そういう活用方法もあるのかなと思います。
河野委員	まちづくりイノベーションまちづくりの会議、私も出席させていただいた。講演の西村さん、かなり面白い内容でございまして、もっと聞きたかったです。本当に個別に質問したかったし、触れ合う時間が欲しいなと思うぐらい講演の内容がすごく面白くて、佐賀での成功事例を本当に鳴門でするためにはどうしたらいいんだろうって漠然と考えました。あの成功事例もように鳴門でリノベーションしていくにはどうしたらいいんだろ、淡い期待と今の現状というのを考えながら、複雑な気持ちとなりましたけども、あんな風になったらいいな。すごい面白い成功事例で希望いただきました。また、楽しい講演に聞きたいと思うし、実際のワークショップとかがあるなら、率先して参加していきたいなという気持ちになったところです。
池田委員	昼間に西村さんと一緒にまちを歩く機会がございまして、我々空き店舗であるとか、そういうところ中心にご案内っていう雰囲気だったんですけど、実は、駐車場1台でもスペースがあれば始められる。それとか、空き倉庫ということで、やっぱり目をつけたところが違うというふうに思いました。講演会のなかでも、土地に価値無し、エリアに価値あり、ということで、やっぱり小さなエリアでも、志をもっている方が一つ一つ集中的に変えていくことによってそこに空気が変わってくれば、玉ねぎ戦法というらしいんですけど、玉ねぎ輪が広がっていくみたいに、周囲に波及効果が広がっていく、といこともおっしゃられていました。大きく始めるのは難しいと思うんですけども、思いを同じくする、官民連携で一つ一つオセロをひっくり返していくみたいなことができるのかなと思ったんです。
内藤座長	空き家とか、西村さんの話とてもいい話だと思うんですけど、国がらみの補助制度だとか、国交省が何か空き家対策のやってるんですよね。その辺の話は出てはないですか。
事務局	その話は出てないです。
内藤座長	西村さんももともとこの話をやり始めたのは別に、佐賀ということもあった

	けどそれ以前に、国交省の住宅局、空き家問題がクローズアップされてきて、それを全国で展開しなくてはという話の中で出てきた。そうすると、何らか後押しをする補助金かあると思うんだよね。ちょっと探してみて。それから、基本はせっかく講演をしてもらったんだから、されっ放しっていうのもね。だから具体的にどうするかっていう話をさっき言った駐車場の問題とかも、実際ワーキングしてみて、何ができるのかとか、何かアクションを起こさないと。なんかいいこと聞いても、3か月で忘れるから。だから、定着させていかなければいけないと思います。せっかくみんな面白いと言って人も集まったわけだから、何かこっちの側に我々の側に別途フィードバックする話があったほうがいいと思う。それは何か考えてください。ただ、実際の問題といろいろあるよね。例えば、駐車場の法規的な話だとか。それから、撫養川がいいんですよね。だから、管理上の問題とか、そういうのは整理整頓しないと、何かこうやって欲しいのでやろうにしても何かできないことが、出てくるとみんながっかりしちゃうから。そうならないように、よろしくお願ひしたいというふうに思います。また後で意見があれば戻ってきましょう。次行きましょうか。中学生アンケートについて、これは僕はすごく大事なアンケートだと思っていて、まちづくりで10年、20年かけてやっていくんだけど、中学生は10年後には成人になってるからね。要するにまちのメンバーとなってるわけだから、ひょっとしたら中心人物になってきてるわけだから、中学生高校生の意見はすごい大事にしないといけない。そうじゃないとみんな出ていく。やっぱり、大切にしてるっていうメッセージはどうしても出したいと思って。アンケートを、何か反映したのかみたいな話もすごく大事になって、よろしくお願ひします。
事務局	(事務局より中学生アンケートについての説明を行う。)
内藤座長	アンケートに勉強なんかはどこですとかってそういう話は入ってないんですか。
事務局	具体的にどこですというのはないんですけど。
内藤座長	高校生のときもなかったんですか。
事務局	高校生の方もどこで勉強とかはアンケートに入れてないんですけど。
内藤座長	実際どうしてるののかなっていうのが、ちょっと気になって。周南の駅の図書館、あそこは勉強している子でいっぱいなんだよね。多分、遊んだりくつろいだりというのが中心だけど、実際、中学生とか高校生の真剣勝負は勉強する場所と思うけどかな。
事務局	そうですね、自由意見もいろいろ聞いてるんですけども、その中で、図書館とか勉強できるところが少なく、困っているという意見もありますし、友達と一緒に勉強したいという意見が高校生に聞いた時よりも多く感じました。
内藤座長	今どうなっているかね。僕もよく理解しきれていないんだけど、もしわかったら教えてほしいんだけど、一時はみんな塾に行ったじゃない。学校が終わってどこに行くかといえば塾に行くという時代だった。そうすると、そういう空間を市が持つ待たない、別に持ったって使う人がいないんだからさ、というこ

	とになるんだけど、そうでない話もまたでてきていますよね。みんな塾に行くわけではない。その子たちは、どこかで寄って集まって勉強したりしているかもしれない、といことが有るので、そこの実態がわかったほうがいいのかも。今の若い子のリアルなところを把握しておいたほうがいいんだよね。ちょっと身近なところで聞いてごらん。そんな場所造ったって、行かないよという話もあるかもしれないし、あればすごいうれしい、そこで集まって、みんなで騒ぎながら勉強しながらみたいな時間っていうかもしれないし、身近なところで聞いてみて。また、教えてください。
河野委員	実は、商店街で学生たちを集めて、ワークショップ的なことをさせていただいたことがあるんですが、現役の高校生は集まって勉強するところは欲しいというのは、皆言いますね。勉強って家に帰って1人でしたらいいんじゃないかと思うんですけど、今の子たちは何かこう、同じところに集まって教えあいがらしたいという。僕は、全く勉強しなかったですけど、もしするんだったら、1人でやって他人と差をつけたいみたいな、1人でやりたがるんですけど、今の子もそうかと思いましたが、現役の高校生は集まるところがすごく欲しくて、別の自治体でそういうところがあって放課後すごく高校生が集まってるみたいですよ。鳴門にも欲しいなという意見は実際に言われたとありました。
内藤座長	せっかくだからほかの人の意見はないでしょうか。
森下委員	私は、中学生の子供がおりまして、今の中学生は、河野くんが言ったとおり、携帯電話をお友達とつないで勉強します。自分1人で勉強するときもあるんですけども、もちろん塾に行っている子は塾に行きますが、結構、私たちのときよりも教えあっこ、それで自分が教えることで、より学習が定着するような効果もあるみたいですし、私たちの世代が考える、競い合いというよりはどちらかというともみんなであってというように変わってきているんじゃないかなというふうに私は見てます。
内藤座長	電話の教えあいて別に、すぐ近くにいて。
森下委員	自宅同士です。場所がないので、自宅にいるんですけど繋いでいるんですよ。何人もグループでつながるとか。
内藤座長	そうすると、場所はいらないのか。
森下委員	いや、でも集まる場所があったら集まってる。
内藤座長	そこでいろいろ何かやるということか。
森下委員	教えるというの、電話で画像を見せるみたいな。映像を繋いで、自分がいやなときは切って声だけ繋いでおく、という感じです。集まれるそんな場所がないからそもそも「ここに集まろうね」という話がなくて、でもいつも繋がっていたいので、場所があったら集まるんだろうなというふうに感じました。
西谷委員	逆にうちは小学校4年です。最近1人で出ていくようになったんですけど、たまたま桑島校区で、図書館が校区内なので、そこに何人かで集まって、勉強して、そのあとどっかに遊びに行くという流れ。僕が高校のときとかは、地区地区の会館みたいなところがあって、そこで勉強する習慣がありました。鳴門

	はそういうところがないのかなっていう気はしています。
内藤座長	今ないのかねそういう場所は。
事務局	自由に使えるという形になりましたら、そういった場所はないかなと思います。例えば私の子供も中学生なんですが、集まれる場所がないっていうのは確かに事実なので、私たちの子供も友達の家に行かなければならないかな。私も親なので、向こうに迷惑がかからないかなと心配しながらとなりますので、そういったことでも、あまり自由なところがあれば助かるかなと思います。
内藤座長	みんな何かそういう場所が必要だっていうことに何となくなるんで、それもわかるんだけど、片一方では空き家が多い。そういう利用どうするかみたいな、そういうところを使っていけばいいかっていうと、そこで管理の問題が出てくるよね。だからここは非常にちゃんと議論しないとまずいかなと思うんですよ。そういう場所だったらいいなっていうことで、いきなりいける話ではない。つまり、公共が持つものなのかそれともフリー、自由にやらしてもらってというふうにしたほうがいいのか。要するに責任の問題が出てくる。そこで何が起きても、これ管理の問題として、公共が非常にやりにくい部分が出てくるはずなんです。それから市役所でいうと何課が管理するのか、みんなそれぞれあったらいいなと思いつつも、踏み込めない1つの障壁がそこにあるので、ぜひ、そういう議論を少し庁内でしてもらいたい。教育委員会は、いや、放課後は私たちの責任ではありません。それでは、そのところをカバーするは誰がやるのかっていうような話になりませんか。非常に難しいんだと思いますね。僕、今大学にいるわけです。そうすると、学生たちは遅くまで学内で創作活動、作業したり、絵を描いたり、建築したり、皆夜なべで仕事をやりたいというわけです。そうさせてあげたいんですけど、それをさせるためには、守衛さんの勤務時間を延ばさなければいけないとか、保健師さん置いとかなないと。指を切ったり、体が悪くなって、それは大学側の責任となるので、保健師さんも真夜中の12時までいなくちゃならない、そういう問題が出てくる。そこをちゃんとやっとなないと、今若い子が本当に欲しいものにこたえられない、ここは踏み込んでやらなければいけない。出来ない理由はいくらでも出てくるので、行政は議論し知恵を出してもらいたいと思っています。
黒崎委員	今、話を聞いてて、私は子供の頃と全然違うし、当然私の子ども成人しており、その頃とはもう全然違う、スマホを見ながらお勉強する、カルチャーショックなんですけど、皆さんやっぱりお金がかからないそういうフリースペース、Wi-Fiとか、過ごせる場所が欲しいというのは、圧倒的に多かったんで、そういう施設というか、空間はコアというか、街中に必要なんだな、と感じました。
内藤座長	最近、都内のレストランで結構いいレストランで若い男の人と若い女の人、20代ぐらいが向かい合って会食しているわけです。フランス料理かなんかで。両方とも携帯を持って、携帯を見ながら会話したり、食べたりしてるんだよね。どういう世の中だと思います。
黒崎委員	そういうところが理解がついていかないんですけど。

内藤座長	僕も理解できない。だけど片一方で、情報化社会はどんどん進むでしょう。10年後なんて予想がつかないくらいもっといきますよ。そのときに、人々とのコミュニケーションとか出会いとかやっぱり地域にとってすごい逆に大事になるんじゃないかなと思うんですよ。森下さんが言ったみたいに、勉強だったら別に、携帯飛ばしてできるんだけど、本当の友達というか友情とか本当におもしろいこととか親に言えないこととか、そういうのは携帯じゃなくて個人個人のつながりのような気がして、そうするとそういう場所をまちが用意できているかどうか大きな問題だと思うんです。
林委員	私もですね、娘が高校生と中学生におりまして。
内藤座長	なんだ、みんなよく知っているんじゃないですか。(笑)
林委員	僕は鳴門市民じゃなくて吉野川市に住んでるんですけど、鴨島も同じなんです。子供たちが行きたいという問題、ほぼほぼアンケートを取ったらこんな感じででてくる。鴨島の場合、今、体育館がきれいになって、それが図書館と併設、アリーナができて、フリーなところは机があって、子供たちが集まって、勉強しているというのは聞きます。あとは近くにマクドナルドがあって、マクドナルドに行って騒ぎすぎて、某中学校は出禁になった。そこは難しいところで、商業的にしているところをフリーにすれば、いっぱい集まって騒いで、一般の人に迷惑がかかるとか、問題がでますし、問題が出てくるということを考えれば、子どもたちが集まって楽しくできる場所が少ない、もちろん鴨島も公園あるんですけど、そこに集まって遊んだりしているんですけど、今、だいぶ暑く30度を超え、40度が近づいたときにそういうところで遊ぶというのはなかなかない。昔と少しずつ変わってきて、スマホにしても生活環境にしても変わってきていますんで、そういったことを用意するのは役目なのかな。ただ、管理するというのは、先生おっしゃったようにすごい大変で、何かの施設ですでに管理しているところにそういったスペースを設けるのが手取り早い。例えば勝手な話なんですけども、立派な市役所があるので、市役所の一角にできないかとか、そうなればすでに管理してるとこなんで。大規模な人を収集する場所が難しければ、数人からでも使える場所というのを整備していくのはひとつかなと。皆さんの意見を聞いて思いました。
永易委員	管理という観点で、今香川県内で自治体から、駅の中の一部使っていないところを勉強スペースにするという話をいただいています。やはり同じように管理の検討課題が出てきまして、扉の鍵の開け閉めをどうするかから始まり、利用時間、エアコンの電源、清掃をどうするかとか、そういった細々したところも、最終的に詰めていかないといけない。その駅の場合はデザインを検討するときに、実際使うであろう高校生の意見をもらっています。実際使う学生さんとかの意見を聞くことで、綺麗に使ってもらえるとか、自分ごととしてもらえるとか、そういう意味でも、ある程度の段階から、使う学生さんたちの意見を聞きながら、やっていくのも一つ手なのかなと思っています。
内藤座長	その辺いろいろ考えておられるんですね。管理の問題って本当難しいですよ

	ね。意外とここが曲者で、僕も大学の学長になって初めてわかった。大学生ですよ、中学生や高校生ではなくて、やっぱり親が出てくるんですよ。モンスターペアレントってやつが。そういうところから事務局にもう電話が年中入るようになったら抵抗できないよね。そこのところはちゃんと考えて、本当に若い子は自由にしてあげたいし、そういう場所をたくさん作ってあげたいんだけど、それが全国でうまくいってないのは管理の問題があって、モンスターペアレンツが出てくるので、それをどうするかっていう話があった。難しいと思うけど、ぜひ、そういうのやってもらいたいんだよね。いい事例をつくる、行政側の管理の仕方をどこまでどうするかとか、そういうグレーゾーンがあるんで、そこをちゃんと議論しないと、やったらいいけど、すぐもうこりごりでやめるっていう話となる。何かこう、鳴門でああいうやりかたがあるんだと気づけば、全国的に広がるような話になる。それでは次の資料の説明をお願いします。
事務局	(都市構造と都市軸、まちのコアと周辺の関係性を事務局から説明する。)
内藤座長	ありがとうございます。これがメインディッシュなので、できるだけ委員の先生方からご意見いただきたいんですが。その前に丸亀については永易さんがご存じだと思うんで何か補足することがあれば、教えていただければ。
永易委員	丸亀駅は、30年以上前に、連立事業として高架になって、この21頁の資料でいきますと、駅の北側と南側というのは、線路で分断されてない状況になっております。ただ一方でこの商店街というのは大分さびれている、丸亀城のまだ南の方にバイパスができて、そちらの方に人がたくさん集まって、やはりスプロール化が進んでるという中で、この商店街含めて中心市街地に人を呼び出そうといったところからこういった施設ができたのかと思います。
内藤座長	今のところいいほうに向かってるんですね。
永易委員	そうですね。丸亀城自体も結構お客さん増えてきているそうですので、ちょっとずつにぎわいというのができていると聞いております。
内藤座長	ありがとうございます。周南については、私が短く補足をする、最初に周南にいったときは、苦しい商店街が閉まっていて、アーケードのまちって言われていて、いち早く商店街のアーケードを整備したけども、どんどんさびしくなって、きっかけは大型店舗が抜けたということだったんだけど、短期的にはどうにもならないんだけど、よくわかったのは、周南は戦災でものすごいやられている。あそこに海軍工廠があったので、徹底的にやられたんですね。戦後、3番目ぐらいの区画整理事業が施されて、区画整理でできたまちなんです。区画整理でできたまちってやっぱ苦しいよね。碁盤目で綺麗にできてるんだけど、とめられない状態があって、駅前からやろうということで、それこそ方向性とか聞いて、今のところまだうまいこといっている。ただ全部がいきなり変わるんじゃないなくて、いい風が吹き始めるかなっていうその風を吹かせることができるか。そうすると商業がだんだんと元気になってくるといえる感じがするので、まちづくりを一生懸命やってきて、少しずつ良くなってくると思う。我々のまちもそういう風になればいいと思います。それじゃご意見を伺っています。

池田委員	このまちの中心市街地は不活性の状態にあると思います。近くにいろんなものが集まっているようで、そうになっていないと思います。各論でいくと、谷通りのお話でいくと、職員になって、市民の方に谷通りって阿波踊りをするためにこんなに広いですかって聞かれました。いや、そうではないはず。意図をもってあの広さにしたはずだけど、現実、あの寂しい状況になっている。あの道を生かすとか、谷通りをどうにか改善していくっていうことがなかなか打ち出せていないというのが実情だと思います。答えは、ある程度事務局が出していると思うんですよ。車線を減らす、椅子を置く、芝生を植える、マルシェをするというところなので、まず絵を描いてみる、妄想してみるということを、すべきなんだと思うってます。道の使い方は、歩いて、佇んで、座れて、隠れて、いろんな機能があるので、谷通り使ってみませんか、というのを言ってみたいです。あと、大道商店街、駐車場の話、よくこの場でも出てるんですが、やっぱりまちが人を引きつける要素って、こういう地方都市で車に乗るまちであれば、停めやすい駐車場があって、停めた後、歩きやすい通り歩行者空間があって、行き先がコーヒー屋さんでも雑貨屋さんでもいいんですけど、2つ3つ強いコンテンツがあるということだと思うんで。これを谷通りを含めたエリアでやるべきだと思います。駐車場がどんどんまちに増えてきて、活気を失わせているっていうのは、国も言っていることで、例えば、いろんな事例があって、その駐車場の一部を市が借りて、実験をやってみるだとか、民間駐車場と市有地を交換して、広場にして、クラウドファンディングしてなど、いろいろあると思います。今までそういう取り組みは、なかなかきっかけがなかったんですけど、まちの骨格を矯正するというか、こういうタイミングで、これを官民連携、公民連携でやっていくタイミングなんだと思うってます。まちのコアの話し、まちのコアなんですけど、要は、ノータリーゼーションで周辺部に大規模店舗が出てきました。それ以外の都市の機能、下水道を含めて、まちの中心は整備している。この状態でそのままいけばどうなるか。周辺部に商業施設が展開していますけど、人口減っている中で、立ち消えになってくると思うんです。まちの重心を大きく動かして、どっかに新しいまちを作れるか、となってくれば今のまち中を見つめ直して、どうもここで議論すると何か面白いじゃん、面白いという話が出てきているので、まちのコアを適切なところにおいてあげて、中高生が気づけてないようなコンテンツというのを実装して、賢く縮小するような形でもう一度まち中の都市構造、都市軸を再構成できないかなと、今だったらチャンスがあるんじゃないかと思っています。その一つの考え方のもとに、まちのコアを考えましょうか、まちのコアが動いたときに何かおこるのかを議論させて下さいというのが今回の資料だと思って、ちょっといろんな意見を聞いてみたいと思っています。
内藤座長	順番にいきましょう。黒崎さん。
黒崎委員	まちのコア動くというすごい壮大な案もありましたけれども、私が聞いた話では、徳島市の方も、徳島駅前から阿波踊りセンターまでを片側1車線に減ら

	して、ウォーカブルシティの実証実験を、11月ぐらいからやるそうです。鳴門でもやってみてもいいのかなというのは思います。確かに1車線減らしたら阿波踊りの桟敷が組めないではないか、いろいろあると思うんですけど、それはそれでやってみる価値はあるのかなと。それと、ゾーン案の中で縦軸の撫養川沿いの縦の軸が私はすごい重要だなと。北側の商店街のエリアから南側、行政とか文化のエリアをつなげる意味でも重要で、鳴門駅の東側は、すぐに国道があって、どうしても川沿いとは全然今繋がってないような状態で歩いては行きにくいですし、撫養川、撫養港ですけども、文化的歴史的にも非常に価値のある、非常に眺めもいいです。南に下がってくると、文明橋がありまして、あそこは撫養街道、非常に歴史がありますし、そこからちょっと東に妙見山、ふもとなんか昔のまち並みの雰囲気を残している、非常に景観のいい場所もあります。そういったところも含めてウォーターフロントの都市軸というのは非常に重要になってくるのかというふうに感じているところです。
森下委員	私はですね、今日作っている資料のように、軸で、この自分が住んでいるまちを考えたことはなかったんですが、小さいときから今まで住んでいても、見ている視点が全然異なってくるんだと、この資料を見たときによくわかってきました。高校生までは、縦の軸、つまりその川沿いっていうのを一番よく利用してました。それはなぜかという、大塚スポーツパークがあるからです。必ず徳島県内の大きいスポーツ大会というのは、大塚スポーツパークで行われますので、汽車とかバスを使って鳴門市に来たら、みんな川沿いを歩くんですね。なぜそこを通るのかと言えば、すごくすてきな場所だし、歩きやすいし、車に干渉されないし、みんなそこを歩いて行きました。ただ、今日作ってくれた資料を見ると、大塚スポーツパークと駅だけの行き来で、川はみんなよく知ってるし、橋もよく知ってるんですけども、このまちの中に向かって歩いていない。鳴門高校や渦潮高校という素晴らしい高校がすごく近いのにいけないというのも、ここになんらかの壁があって、車を使う人にはわからないような、歩く人とか、自転車の人に対して「通ってみたいよね、行きたいよね」っていうような道がないんじゃないかなというふうに、感じました。やっぱり今の自分だけの視点じゃなくて、若い人からお年を召した方までの使い勝手やまちのあり方を踏まえたうえで、鳴門市がどうやったら魅力的になるのかを考えられるきっかけがこの資料なのかもしれないと思いました。
永易委員	2点ありまして、鉄道の観点でいきますと、鉄道ができて何十年も経ちまして、その間まちの中心が変わったりする中で、鉄道で分断になったまちをどうつなげるかというのが課題になっております。その時の方法としては先ほどの丸亀駅のように、線路自体を上げてしまうか、徳山駅が自由通路だと思うんですけど、歩行者が自由通路で通れるようにするのが一般的ですが、鳴門駅は終着駅、頭端駅と言いまして、四国でも3か所ぐらいしかなく、全国的にもこういった駅の形は少ないです。何がメリットかというと、駅を上げたとしても、上下の移動が発生しますが、鳴門駅はそういったことはなくフラットに行

	けますので、線路の途中にある駅よりは、いろんなアイデアが出てくると思いますし、そういった特徴を生かす方法もあるのかなと思っております。もう 1 つは撫養川の話で、先ほど高校生とか通られるという話を聞いたんですけど、私も最近、鳴門に來だして、地図で見ると近いんですけど、鳴門駅を降りたときに、撫養川がそこにあると知らないとなかなか気づかないと思います。そういう意味では駅や商店街の方から撫養川につなぐ、歩道とかもそうだと思うんですけどサインとか、歩きたくなるきっかけとか、仕掛けとか、知るきっかけみたいなものといっしょに整備する必要があるのかなという風に思います。
内藤座長	頭端駅ということがありましたけど、解説をすると、ヨーロッパの都市の駅は大体頭端駅です。中世の都市がそこにどんとあって駅を降りると、まちが広がっている、良いところなんですよ。日本はどちらかっていうと通過駅がほとんどなので、頭端駅の構造はすごく少ないですね。だから、特徴となる話だからアイデアを出すというところかな。
林委員	今の皆さんのお話を聞いて、コアになる鳴門駅やっばり鳴門市の顔となる鳴門駅を中心にもう一度まちを見つめ直すっていうか、一番かなと思いました。コアをいっきに動かすってゲームじゃないんで、とんでもない費用がかかってくると思います。そこをカバーするのがバスになるのかな。まず、駅があって、そこをつなぐのがバスになりますので、バスのロータリーを整備していく。あと、車社会ですので、駐車場を整備する必要がある、今の鳴門駅前、大分整備していただいて、いろんな系統が、鳴門駅で乗り降りすることができるようになりました。ただ、鳴門公園線方面、徳島駅方面を同じところに着きますので、乗り換えがわかりづらい。そういった問題も出てきてますので、こういった形でですね、まちづくりをしていく中で、再度ですね使いやすい、わかりやすいっていうのが一番使いやすい、繋がるのかなと思いました。そこで、徳島バスとして何ができるかって、まだ今後なんですけれども、移動方法に関しまして、もうちょっと自由にできないかっていうのはちょっと会社のほうで考えてまして。やっばり乗ってもらわんと公共交通なくなってしまう。輸送量というのはお客様に乗ってもらわないと輸送量と輸送密度が確保できませんので、公共交通は基本的には利用者がいないと無くなってしまう。公共交通がなくなれば、そのまちにはもうバスもないか、鉄道も無いかというまちで、まちの魅力も下がる。これから免許返納してまちに住んでいる人も、今は乗っていませんとも将来乗る可能性がある人もいますので。交通事業者のほうも、どうやったら便利になるのか、どうやって乗ってもらえるかっていうのはちょっといろいろ考えてます。利用者が便利になる方法を考えております。最終的に何が言いたいかと言いますと、今まで交通事業者はお客様の取り扱い、JRさん、徳島バスっていうのは、並行して走ってるんで、お客様の取り扱いがあったんですけども、ここ直近ではやっばり生き残っていく、また利用者のために何がいいのかっていうことを考えると、協力し合う共存というか。そこにかじを振っておりますので、やっばり鳴門駅が重要になる。鳴門駅からバスが繋いでいく。

	そういう交通ネットワークを、きちんと設置することによって、新しい形ができるんじゃないか。鳴門の活性化に繋がればいいなと考えてますので、またこの会議でいい報告ができたらと思います。よろしくお願いします。
河野委員	ここの２９頁のゾーニングを見ながらいいなあと、何かこう希望を持って見ておったところでございます。２９頁のたたき案全体のことが載ってる案ですけど事務局さんが作っていただいたなんかいいなと思って、パブリックゾーンの中、まちの顔となる交通結節点で書いていただけてますけども、鳴門駅周辺で土日とか、鳴門の顔の１つだと思うんですけど本当に人が少なく、観光地って結構人がいるんですけど何故か駅に本当に人がいないというような状況で、中心地で商売させていただいたら本当に感じます。駅周辺の人の流れなんだろうな、人が集まってくると自然に、お店とかも増えてくるものなのかなと、まず人が集まるためにいろいろ商売人も考えないかんのだろうなと思いながらこのパブリックゾーンでおるものとしては、見させていただいたところです。商店街の有志の皆で空き店舗を購入いたしまして、何とか例えば先ほど放課後に学生たちが集まって勉強できるような、施設として使えないかとか、鳴門の観光に特化したようなゲストハウスをできないかとか、有志で購入した物件、まだちょっと使い方が決まらず、持て余しているんですけど、パブリックスペースで使っていただけるようにはいつでもご準備があります。ＪＲさんとか徳バスさんの乗車率につながるような施設としても使えると思っておりますので、そこも１つ自分も力を入れて考えていきたいなと思ってるところでございます。この谷通りですけど、私小学校１年生のときに、今の自分の店が大道商店街から、この谷通り付近の方に移りました。小学校のとき結構谷通りが、もう鳴門の子供たちだったら絶対誰しもが通るだろうというホビーショップもあつたし本屋もありましたし、夜はちょっとした横丁のような飲み屋街もありまして、昼は子供たちが汽車公園とか、ジャスコですね当時は、あの上はゲームセンターだったんですけど、あの辺で遊び、夜はよっぽらいでちょっと柄が悪くなるという、まちの様相を呈していたんですけど、いつからか塾ばかりになって塾も閉店の方向になって、非常に谷通りが寂しくなっておりますので、まちの顔となるというような感じで手が入ると、絶対、今よりも絶対良くなっていくんだろうなと思いながらそういう時代が間違いなくありましたので、商店街もそうですけども。人が集まるためにこの大きなハードとソフト、ソフトは多分僕たち本当に考えていかなければいけないことだと思うんで、専門家の方の意見も、内藤先生を初めいろんな専門家の方いらっしゃると思うんで、商売の専門家もあれば観光の専門家、交通の専門家がおるわけで。いろいろお話をしていきながらこのゾーニング案ですね、ちょっとでも近づいていけるようにしてみたいなと希望を非常にこの資料を見させていただきました。あと意見も、川まちゾーンですけど、撫養川でサップをしたんですけど、まち中の川でサップできるっていうのが面白いなと思って喜んで勇んでやったんですけども、大好きな文化会館、鳴門のまちの顔の１つである文化会館を眺めなが

	ら撫養川をまち中をサップで進んでいくっていうのは、すごい楽しくて、川沿って文化会館の前とか、親水公園として綺麗になっておりますので、散歩、ジョギングとか、いろんな人が結構通っておりますてあの人たちからちょっと羨ましいなと思って見られたと思うんですね、楽しかったです。この東浜第2公園の浮島、今閉鎖されてますけど、あそこを釣り堀にしたい、浮島を取って釣り堀にしたらいんじゃないかと。あそこ、塩水なんで鳴門の鯛が生きるんですね。あそこを釣り堀にして、観光客の人が子供にちょっと気軽に釣らしたいなという人があそこで鳴門の鯛を釣って、夜さばいて食べれるサービスまでやったら絶対に流行るんじゃないかな、まち中の釣り堀で地場産品が釣れるって面白いなと思ひまして、市ヶ谷、釣り堀がありますね、大都会の神田川で釣りができるっていうのが楽しかったんですけど、撫養川の魚は食べれませんけど。鳴門の鯛をまち中で食べる釣り堀、絶対流行ると思ひました、こういう川まちゾーンというのが1つ新しいコンテンツが入ったらいいなと思ひます。
西谷委員	駅の移転の話とかになってくる。不動産の観点からするとその土地を、どうやってこう広げていくのか、オーナーがいる中の土地をどういうふうに売買していくのかっていうのは、私も不動産の会社にいますけど、歴は短くて、都会とかどうされてるのかなというのは正直思うところで、不動産にはこのエリアを含めて、ほぼ、毎日と言っていいくらい相談はあります。ただ、相談される人も少しでも高く売りたいとか、そういう意思が強いので、不動産屋としては、個人情報もあるので、表に出すわけにはいかなくて、ただこの中で、不動産屋同士で話して、ある程度押さえとかないと不動産屋も高く買ってくれる人にポンポン売ってしまうので、その辺このエリアの中でも早急にどういうところの土地が必要になってくるのかなというのはある程度目星をつけていったほうがいいのかなっていうのは思っております。
内藤座長	そこは、不動産業の難しいとこだよね。
西谷委員	やっぱり売主の意向というのを重要視してしまう。不動産屋もその時の仲介手数料というのが生業になってくるので。
内藤座長	下手に単価が上がると事業がしにくくなって、また衰退の道に入るといふこともあるわけですね。
西谷委員	タイミング良くまとめて、それを行わないと。一個でもパーツが抜けてしまうと、いびつな、徳島でいうと、イオンの中に一個家があるとか、成田空港でもそういう土地が接収できなかった、その辺はタイミングがあるのかな。
内藤座長	何点かあるけど、意見だけ言ってまとめる方向にいかないと時間が尽きるのて。一つはこの撫養川の話しが出てるんですけど、県管理なので県港湾の管理なので固いところが管理している、ここにどれくらい打ち解けてもらえるか結構大事だと思ひてます。撫養川の河川に関しては、ここを有効利用して面白くなりましたっていうのを、県の側にも花を持たせてやらないと。結構難しい調整だと思ひんだよね、河川の部署は、土木行政の中では最強部隊なので、港湾もそうだけど、高度経済成長期の港湾は要するに物資とか、港管理だから、都

	市にとって一番大事な部分を担っているというプライドがある。だから、ここどうやって解いてもらえるかって、撫養川を活用してみんなで使えるようにしよう、それがまちの生命線なんだからっていうふうに我々の声を届けてもらって、市がいきなり言うとなれば、こういう委員会でもそういうことが話題になったんで何とか一緒にやりませんかという話の持ちかけの方が向こうも受け入れやすい。うまく県とやって欲しいというのは、1つの希望としてあります。あと、川は兩岸だよ、という話があります。いわゆるまち側から見た岸、川辺なので、本当はこの軸は反対側にも描いた方が良いでしょう。それが大塚の方まで繋がりやすくなるような話かなという気はします。無理してそれ描かなくてもいいです。これの方がわかりやすいんで。しかし、イメージとしては、川は兩岸で、それが良くなるという。一月くらい前に道頓堀に行ったんだけど、あんなに変わるかなと思って観光船が長蛇の列で。川が変わると、何か変わるんだよ。川の景色が変わると川からまちを見たりすると人の視点は変わるんだよ。それがいいと思うので、何とかその船着き場の話もどうなるかわかんないけど、何とかうまくやってもらいたい。それと、今日事務局としては、都市軸はこんなんでいいですかっていうようなことを、皆さん、そんなに反対はなかったような気がします。そういうのあった方がわかりやすくなる、というのが、委員会で大勢の意見ですね。それから鳴門のコアっていうのをどうするという話で。こういう言葉がいいかどうか分からないが、それについてもそんなに、強い反対意見を述べられる委員はいなかったというふうに認識をしています。だから、今、その2つのことについて、わかりやすく、具体的にしていってもらったらいいかな。駅の移転に関しては、実はJRさんいらっしゃるんで、大問題なので、もうちょっと深めたほうがいいような気がしています。先ほど連続立体交差の話をしたけど、私も、連続立体交差は何件かやってきますけど、時間がかかる。区画整理事業とペアで動くことが常なので、10年から15年ぐらいは。そうすると、鳴門がこれから過ごす時間を考えると、それで間に合いますかみたいな話もあるし、それから、先ほど頭端駅っていう位置付けで考えると、立体交差は案の中に含めない方がいいのかなという意見です。それと、事務局がどうでしょうかというウオーターフロント、もう皆さん、絶対やったほうがいいという意見で、事務局が取りまとめで、この3つぐらいは皆さん意見聞いてくださいと言われたことに関しては、概ね何かご提案いただいた内容で、委員の先生方からも、あんまり異論はなかったと理解しております。今日の提案は基本的に都市マスのロジックに乗っかっているんだよね。都市マスや立地適正化の大体の理屈には乗っかっているのでもいいんじゃないかと思います。今日の大体ところはできたと思うんですけど、何か事務局の方から他にあったけ、説明しないといけないことは。
事務局	(事務局より、デザイン会議のロードマップ案と未来ビジョンについての説明を行う。) 都市に関する技術的な議論、未来ビジョンの作成、国の政策確認とかにつき

	ましては、専門的な話となったり、技術的な検討・調査が必要となりますので、今後委託業務として検討しております。9月の議会に補正予算の計上を事務局の方へ考えておりまして、1度皆さんの方からのご意見を伺いたと思います。
内藤座長	皆さんの方からの意見ありますか。そう言われても、というところですか。
事務局	今まで私たちの事務局で進めておりましたけど、
内藤座長	とても良かったと思うよ。
事務局	ただ、どうしてもJRさんの話とか未来ビジョンという話になりますと技術的なところ、専門的なそういうところが含まれてきますので、そういったところつきましては、コンサルに委託をするという形で業務を進めさせていただこうかと考えておりますので。
内藤座長	いかかですか。よろしいですか。僕の方でできるだけ内製化でやれるところまでやってくれと言っていて、コンサルタントは、コンサルタントで型通りになってしまうので。
事務局	もちろん内製化、私たちができることはできる限り、自分たちがします。
内藤座長	よろしいですか。
事務局	そっちの方向で進めさせていただきます。最後になりますけど、次の第4回の予定について説明させていただきます。次の会議は、都市機能とコンテンツとしまして、どのようなものが必要とされていくかというところ深めていきたいと思っております。あと東西軸、撫養川の河川につきましても提案じゃなくて、少しずつ具体的な方法っていうのも探していきたいと思っております。それとまた、まちの利用という形につきまして社会実験につきましても次の会議においていろいろご提案ができればと、そういったところを考えております。
内藤座長	今日は大体終わりだと思いますが、未来ビジョンの項目にせっき高生中学生的アンケートやったわけなので、まちづくりの一つの大きな柱として、若者の話しはやっぱりどこかに混ぜておいてほしいなと思っております。誰のためのまちづくりかが、ともすると見えなくなるので、もちろん高齢者の方とかバリアフリーだとかもちろん大事なんだけど、基本的には未来ビジョン、未来のためなんだから、商店街再生のためのまちづくりじゃないんだよ、きっと。そこを使う人、使う世代のためのまちづくり、結果として、商店街が復活する、まちが復活するって話だと僕は思うんです。一番大事なの、ここで暮らす、将来ここで暮らす人たちのことなので、それがともするとどっかで掛け違ちゃうんだよね。基本的には、ここに人が集まってるっていう話は、その結果として再生していく。そのところは逆転しないようにお願いしたい。
森下委員	私も、お伝えしようかなって悩んだんですけど、中学生のアンケートについてお願いをさせていただきます。私の娘がアンケートに答えた当事者だったので、このアンケートをとった時の周りの子供たちがどうだったのかを聞いてみたんです。この回答率の高さもすごいなと思いましたし、結構その自由意見も多いということに、私はびっくりしたんです。こんなにたくさん意見をみんな自分で書くんだなっていうふうにも思いました。それもあって中学生の様子を聞いて

	てみたかったのです。 一人一人に配ってるタブレットで、結構時間をかけて、朝の時間に行ったそうなんですけど、みんな黙々とアンケートにこたえていたそうです。何か意見はなかったのかと聞いたら、いつもこういうアンケートするけど、これがどうなってるのかわからないから面倒くさいという意見が結構多かったと言っていました。ただ、面倒くさいと言いながらも、中学生って真面目なんで、ちゃんと答えてるんですよ。この自由意見を見てみると、何もしないとか、知らんとか、そういう面白い意見も書いてあります。それでも、知らんと答えるぐらいに、ちゃんと向き合ってるのではないかなと思うんですね。私達商売人なんかもよく、市や行政の方と話をさせていただいたり、いろいろヒアリングして下さる機会もいただくのですが、そのフィードバックをするっていうところに対しては、少し足りないんじゃないかなと思うところがあります。今日内藤先生がおっしゃったように、子供だからといって当事者意識が芽生えてないわけではないので、意見を出してもらったあと、今こういうふうにまとめてこうなってますよみたいな、そんなに詳しくなくてもいいので、まとめてくださった資料を返信することを、検討していただだけませんか。そして、子供たちには他の子がどういうふうな意見を持ってるのかを知ってもらうことも大切だとも思っています。
内藤座長	それ出来そうですか。
事務局	少しまとめさせていただいて、私たちもできる限り発信したいと思っておりますので、その辺をちょっと検討してみようと思います。
内藤座長	結構そういうのをやってそうでやっていない。もしそれをやると、鳴門市はなんか面白い、新しいまちづくりの取っ掛かりを掴むかなと。基本的には、私も年配だし、みなさんも年配で年配の人たちが自分たちの頭で考えたまちづくりというのは、多分時代遅れなんだね。本当のユーザーは、アンケートを取って貰った中高生なのだから、フィードバックをして彼らがもう少し熱いものが生まれてくるのがいいんじゃないかなと思うんで、森下さんが言われたように、できるだけ、対話を繰り返していく、その意味でも返したほうがいいよね。
池田委員	言葉じゃないですか。おしゃれとかカジュアルとか、これってこういうことですか。こういうことですかっていうキャッチボールがやっぱり、2往復3往復をやりながら、今この取り組みを続けていくとすれば、それをしながら、次の段階に行くっていうことだと思うので、言葉でやってる限りは、おしゃれの定義もカジュアルの定義も違うと思うので。そこは少しずつ、中で議論しても違うじゃないですか。だから、そこは目に見える形でそれってこういうことどういうこと、というのを投げかけて欲しいなと思って。お願いします。
事務局	ちょっとずつキャッチボールをしながら深めていくっていう話の方に、進めていければと思います。
内藤座長	多分彼らにとっては行政はすごい不信感の対象として、どうせやっても何もやってくれないんだろうな、と思ってるわけです。別に 100%じゃなくていい

	んだけど、そのおじさん達も真剣に考えているということを伝えたほうが良く て、何かアンケートで答えてくれたことに関しても、別にさらっと見てるんじ ゃなくて、ちゃんと見てるよっていうメッセージを何か出した方がいいと思う んですよ。今の中学生のアンケートは何年後かには今度、高校生になるわけ だから。ぜひ、ちょっとその辺をうまくやるといいと思いますんで、それがそ の未来ビジョンみたいな部分の下敷きの1つとなる。ぜひ、お願いをしたい。 そしたら今日はこんなところですけど、J Rさんもいらっしゃるけど、駅をど うするかっていうか、コアの部分はどうするか、今日は結論ではなくメニュー を提示ということでもいいですか。いろいろ調整事項もあるだろうし、J Rさん の内部の調整もあるでしょうし、勝手に議論したらそうなるわけでもないし、 ただ、なんとなく見えてきているような感じがあるので、そこを動かしたらど ういうふうになるのか、次回はもう少し具体的になってくる。次回はどんなつ もり、どんなふうにしていきたいか教えてくれる。
事務局	J Rさんとも話ししながら、少しずつ深めていく中で進めていけたらと思い ますし、私たちの意見もありますし、J Rさん側の意見もありますし、その辺 をすり合わせながら、出せるところを出していこうかと思います。
内藤座長	この委員会は、次回が最終になるの。
事務局	次は11月開催予定で、未来ビジョンというのを、どういったものを出すの かをお出しできればと思っています。その次に2月ぐらいに未来ビジョン素案 の議論をいただきたいと考えています。
内藤座長	着地点みたいなのがある程度見えてこないかね、自由意見ばかり言って消え てしまうしね。
事務局	皆さんのイメージを共有という一段階踏み固めた形ができればなと。
内藤座長	5回ぐらいで着地点ということで、一応考えて。時間も来ましたので事務局 にお返ししたいと思います。
事務局	委員の皆様には、終始、活発なご議論を頂戴し、ありがとうございました。 これをもちまして、第3回 鳴門市まちづくりデザイン会議を閉会いたしま す。本日は、ありがとうございました。